

みんなのコンテナ菜園

サイインゲンは、原産地の気候から比較的涼しい気温を好みます。霜の心配がなくなれば種まきや植え付けができます。

生育適温は高めの方が、枝数が増え、花芽も早くでき、花数は多くなります。枝数は本葉2枚の頃の栄養でも増えるので、この時期の苗を、肥料を施した土へ植え付けます。32度以上では受精不良になり花を落とすことから、温暖地以西の春まきはこの頃収穫が終わります。秋は7月下旬～8月中旬に種まきすれば、残暑が落ち着いた9月中旬から開花し、下旬から収穫できます。

品種は、つるのあるなし、さやの形でさまざまあります。草丈が低いつるなし品種は長い支柱は不要で、小ぶりなコンテナで栽培でき、直径24cmの鉢で2株、長さ60cm程度のプランターなら6株ほど育てられます。

サイインゲン(つるなし)の栽培方法

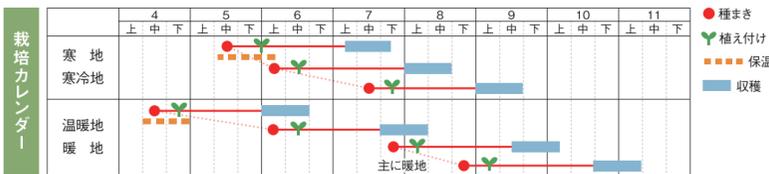


サイインゲン(つるなし)

種まき後50～60日で収穫できる採れたての味わいは格別

【病害虫情報】

- ハダニ類 軒のあるベランダは乾燥しやすく発生しやすい。葉裏などに発生したら殺ダニ剤で防除する。
アザミウマ類 高温・乾燥下で発生して葉全体に白っぽい細かな筋が出て株が弱る。防除は早めに。



栽培カレンダー

1 種まき 2 間引きと植え付け 3 支柱立て・誘引 4 収穫

市販の野菜用培養土を入れた直径9cmのポリ鉢に、深さ約2cmの穴を4つ開け、種へそ(写真1)を下にして1粒ずつまく(写真2)。土をかけ、たっぷり水をやる。発芽適温なら3～4日で芽が出てくる。



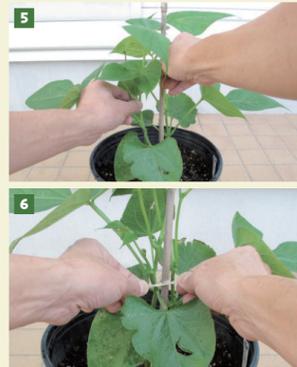
ポイント 出芽適温を保つ。気温の低い時期は出芽までは日当たりの良い室内や戸外は不織布をかけて保温する。

出芽後7日ほどで最初の本葉(初生葉)2枚が開いたら、はさみを使って2株にする(写真3)。続けて、1カ所2株分の元肥(IB化成38g)を混ぜた培養土を直径24cmの鉢へ入れ、苗を植え付ける(写真4)。植え付け前には苗に水やりしておき、土が崩れて根を傷めないように注意する。土を寄せ、最後に水をやっておく。



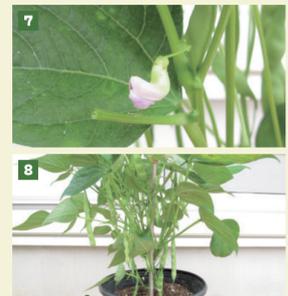
ポイント 枝数を増やすため、本葉2枚の時期を逃さず植え付ける。

植え付けから10日ほどで、倒れないように長さ約90cmの支柱を立て(写真5)、ひもで縛っておく(写真6)。



ポイント 梅雨時は雨が当たらない場所で、梅雨明け後は風通しの良いできるだけ涼しい所で栽培する。開花後はさやを大きくするため、土の乾きに注意する。

種まきから50～60日、開花後(写真7)2週間ほどして、さやが長さ12～14cmの頃、中の種の膨らみが外見で分かるようになったら、なるべく気温の低い朝に収穫する(写真8)。収穫が遅くなると筋っぽくなるだけでなく、さやの成長ばかりに栄養が取られて、開花が止まってしまうので早めに収穫する。



ポイント インゲン本来の格別な味は、採れたてを1～2分ゆでればOK。

写真・文:園芸研究家 淡野一郎/写真©ICHIRO AWANO

JAあつぎの直売所ガイド



夢末市 厚木市温水255 ☎046-290-0141 9時30分～17時 毎月第3水曜日(3月・9月は第2水曜日、1月・8月・12月は除く)・1月1日～4日



グリーンセンター 厚木市三田1827-1 ☎046-241-6150 9時30分～17時 毎月第2水曜日(8月は第1水曜日、1月・5月は除く)・12月31日～1月4日



Tomoni内「夢末市出張販売所」 厚木市泉町3-13(厚木駅前農協会館1階) ☎10時30分～14時 土曜日・日曜日・祝日・夢末市休業日 住住所 ☎電話番号 ☎営業時間 ☎休業日

あつぎせせらぎ米 (4.5kg精米・5kg玄米)

特別割引券

3,780円 → 3,500円

有効期間:令和8年3月1日(日)～19日(木) ※夢末市・グリーンセンターでご利用いただけます(夢末市出張販売所は対象外) ※1会計につき本券1枚限り、1袋のみ有効(コピー不可) ※「お米の日」や他の割引サービスとの併用はできません ※状況によっては、銘柄が変更となる場合があります

お便り&プレゼントクイズコーナー

クイズ

国連は、女性の農業参画や地位向上を目的に令和8(2026)年をある国際年に制定しました。●に入るものは何でしょう?

答え: ●●●●●●●●の国際年 ※ヒントは紙面内にあります!

締め切り

令和8年4月1日(水)

かながわブランドに登録される「厚木トマト」(1箱) 抽選で5名様にプレゼント!



当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

応募方法

ハガキまたは FAX、ホームページにて①～⑦の項目を記載し、ご応募ください。

- ハガキ/右記の通り FAX/046-223-8814 ホームページ/ https://www.ja-atsugi.or.jp/form/greenpage/

二次元コードを読み取るとホームページの応募フォームが表示されます。



切手 243-0004

厚木市水引 2丁目9番2号

JAあつぎ総合企画部 グリーンページ係

※①～⑦すべてをご記入ください

- ①クイズの答え ②郵便番号・住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥当広報紙で取り上げて欲しい情報 ⑦当広報紙へのご感想やJAに対するご意見・ご要望

発行 厚木市農業協同組合 厚木市水引2-9-2 ☎046(221)1666(代)



https://www.ja-atsugi.or.jp/

JAあつぎ 検索



JAあつぎ ホームページ



JAあつぎ公式



夢末市



グリーンセンター



JAあつぎ公式 [ゆめみちゃんねる]



夢末市

組合理念 夢ある未来へ 人とともに、街とともに、大地とともに...

(組合が存在する意義、理由、目標を表わしたものです)

JAあつぎは、組合理念のもと、「農業を軸とする地域に根ざした協同組合」として、支所店を中心にさまざまな事業活動を展開しています。准組合員の皆さまにおかれましては、当JAの事業をご利用いただくとともに、各地区で展開する協同活動にご参加いただき感謝申し上げます。地域の農とくらしをともに支えるパートナーである准組合員の皆さまが当JAの事業を利用していただくことは、厚木市・清川村の農業の発展に役立っています。准組合員の皆さまに管内農業やJA事業に関する理解をさらに深めていただくための広報紙として「Green Page」をお届けします。

2026年は「女性農業従事者の国際年」

地域の農と食をつなぐ女性の力

農業は、食と国土を支える大切な一次産業です。現場では多くの女性が力を発揮し、地域の農と食を支えています。国連は、女性の農業参画や地位向上を目的に、令和8(2026)年を「女性農業従事者の国際年」に制定しました。これにより、国内外で女性農業者が果たしている役割や取り組みがますます脚光を浴びることが期待されます。誰もが自分らしく活躍できる農業の実現には、女性が働きやすく、農業経営などにも参画しやすい環境や仕組みづくりが欠かせません。今回は、女性農業者の現状やJAの取り組み、現場で活躍する生産者の声を紹介し...

女性が新規就農する理由って?

農業者をサポートする取り組みとは?

女性の基幹的農業従事者数って?

地域で活躍する女性農業者ってどんな人?

地域の農と食をつなぐ女性組織とは?

ページをめくって地域で輝く女性の力についてもっと知ろう!

管内でも農と食を盛り上げるため、多くの女性の方が活躍しています。JAあつぎでは、女性の声をJA運営に生かすため、平成22年より女性理事を選任し、現在は4人の方にご尽力いただいています。

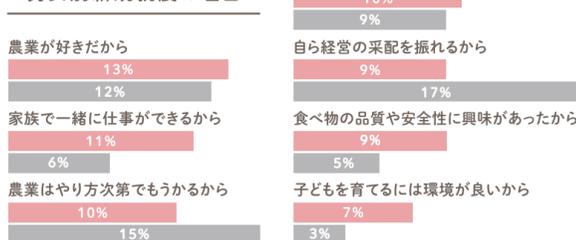


JAあつぎ 代表理事組合長 大矢 和人

女性が新規就農する理由

新規就農者を対象にした調査によると、就農の動機として「農業が好きだから」という理由に性別で差はありませんが、異なっている回答もあります。男性は「自らの採配を振るるから」などが上位になっているのに対し、女性は「家族と一緒に仕事できるから」「子どもを育てるには環境が良いから」という家族や子どもの要素が男性に比べて高く、また「食べ物の品質や安全性に興味があったから」と回答する割合が高い点も特徴的です。女性が農業を仕事として選択する際に、家庭や子育ての充実、食の安全性などを重視していることが分かります。

男女別新規就農の理由



注1) 就農してからおおむね10年以内の新規就農者を対象に行ったアンケート調査(有効回答者数4,377人) 注2) 就農理由についての回答の上位3位までの合計を男女別全回答で除いた割合 出典:農林水産省「令和元年度 食料・農業・農村白書」 特集2 種まきを増やす女性農業者(令和2年) 一般社団法人全国農業会議所新規就農センター「新規就農者の就業実態に関する調査結果」(平成29年3月公表)を基に農林水産省作成

今回のグリーンページでは、地域で活躍する女性農業者の方にフォーカスしました。家族や子どもの健康など、女性ならではの視点に立って、ポジティブに活動されている方が多くいる印象を受けました。取材活動を通じて、明るく元氣な女性の力にパワーをいただきました。今後も、さまざまな視点で地域農業やJAの活動の魅力を伝えていきます。(吉川)

女性農業者の現況

令和6年における国内の基幹的農業従事者数は114万4,000人で、そのうち女性は43万1,000人と、全体の38.7%を占めています。女性が重要な担い手であることに変わりはありませんが、直近5年間の動きを見てみると、占める割合は減少傾向にあります。



一方、農林業センサスを活用した分析結果から、農業に年間150日以上従事している女性農業者数を見ると、平成27年に15～59歳であった従事者数に対し、5歳加えた令和2年の20～64歳の従事者数は約1万人増加しています。全体の増減に占める割合は低いものの、比較的若い世代の女性の活躍には明るい兆しが見え始めています。

年間で農業に従事した日数と年齢階層別に見た女性農業従事者の増減数 (単位:人)

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65歳以上
計	-3,345	-8,240	-10,655	-8,741	-9,708	-13,724	-16,750	-21,297	-26,624	-332,007
60日未満	-4,199	-9,252	-12,093	-10,277	-10,440	-12,791	-14,826	-18,267	-22,384	-111,230
60～149日	160	-110	-256	-838	-1,541	-2,287	-2,258	-3,096	-4,582	-100,901
150日以上	694	1,122	1,694	2,374	2,273	1,354	334	66	342	-119,876

(参考) 農林水産省ホームページ「トピックス3 女性活躍の推進」より抜粋

農林業センサスとは？

農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など、農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を把握するために5年ごとに行われる全国調査です。調査結果を基に統計が作成され、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となっています。

65歳未満の農業に150日以上従事している女性農業者数は10,253人増加

農業者をサポートするJAの取り組み

JAあつぎでは、農業者をサポートするため、学びやつながり作りの場の提供、働きやすい環境づくりに向けた事業や取り組みを行っています。これらは、将来の担い手として重要な女性農業者が農業に参画しやすくなることにもつながっています。ここでは、取り組みの一部をご紹介します。

農業学習の場「農業塾」

JAあつぎは、地域住民に農業学習の場を提供しようと、平成19年から「農業塾」を開講しています。開講から令和7年度までの卒業生は665人にのぼり、174人の女性の方が受講しています。カリキュラムでは、農業における基礎知識をはじめ、野菜の栽培方法や農業機械の操作方法など、講義や実習を交えながら約半年間をかけて習得を図ります。



農作業の効率化へ「農業機械レンタル事業」

JAあつぎは、農作業の効率化と労力軽減に向け「農業機械レンタル事業」に取り組み、生産者のサポートにつなげています。平成27年の開始以来、貸出件数は約3,000件にのぼります。

同事業は、年間を通じて利用期間が限られる農業機械の購入コストを削減することで新規就農者などの担い手支援につなげるほか、耕作放棄地・遊休農地の未然防止に向けて開始。トラクターやマルチャー、自走式掘り取り機など、計19種類が利用できます。

手厚いサポートで生産者を後押ししているのが、レンタル料金の割引制度。新規就農者や耕作放棄地解消の支援として、レンタル料金が減額となります。

農業は、力を伴う仕事も多く、女性農業者にとっても負担になることがあります。農業機械を活用することで、身体的負担を減らし、作業効率も上がるなど、働きやすい環境整備にも同事業は寄与しています。



この他にも、相談体制の強化へ各地区に営農指導員を配置、ニーズに合った作付け提案など、さまざまな取り組みを展開しています。

厚木市都市農業支援センター

農業の相談窓口を一本化し、新規就農者などの支援体制を強化するため、厚木市・厚木市農業委員会・JAの3者で開設する「厚木市都市農業支援センター」。それぞれの専門性を生かしながら、地域農業の振興に向けてさまざまな取り組みを行っています。

お問い合わせ 厚木市水引2-9-2 JAあつぎ本所2階 指導販売部内 TEL:221-5511 8時30分～17時 ※土・日・祝日、年末年始(12/31～1/3)は除く ▲詳しくはこちら



地域で活躍する女性農業者



農業という新たな分野への挑戦

代々続く農地を守ろうと6年前に建築業から転身し、農業を始めました。現在は、露地野菜を中心に年間約25種類の作物を生産しています。農業の知識や技術はJAの農業塾で学んだほか、近隣農家との交流も図り、栽培に関する意見交換なども行っています。農業は、人が生きていく中で不可欠な「食」を生産する大切なもの。苦労も多いですが、都度異なる環境や条件など、変化に対して毎回違ったチャレンジができる部分も楽しみであり、やりがいも感じます。

工夫を凝らしながら日々奮闘

農業では、力仕事や同姿勢での作業が多いため、農業機械を活用し、労力・身体的な負担軽減につなげています。併せて、連作障害防止に努めることで、病害の発生も少なくなり、労力も減らすことができています。

燃油や資材の高騰、猛暑などの環境変化に対する作業の増加など、課題が多い中でも、手塩にかけて作った農産物を納得した価格で手に取ってくれる人がいることに感謝しています。将来的には、主食である米の生産もしていきたいです。

育てる楽しさに出会い就農

嫁ぎ先の祖母が行っていた畑仕事を手伝う中で、作物を育てる楽しさに魅了され、3年前に就農しました。現在は、子育てや家事と両立しながら、年間約25種類の露地野菜に加え、ミモザやジニアなどの切り花栽培にも取り組んでいます。農業は、収穫というゴールに向かって工程を考え、一つ一つ積み重ねていける見通しの明るい前向きな仕事だと感じています。また、直売所や飲食店へ出荷を行っているため、反響が直接伝わってくるのがモチベーションややりがいにつながっています。

アイデアを生かし農業を身近に

直売所では、親しみやすいイラストや料理の写真、レシピなどを盛り込んだオリジナルのPOPを作成し、販売しています。また、SNSを活用し、小まめに出荷状況を発信するなど、消費者の方に手に取ってもらうための工夫を行っています。

この他、農業を充実させ、自身も生き生きと活動するためには、体の仕組みを理解し、トレーニングやケアすることも重要だと考えています。今後も、消費者の期待に応えられる農産物を作り、花や緑の生産も増やしていきたいです。

地域の農と食をつなぐ「女性部」

地域農業の活性化には、食の推進も重要となります。JAには、食や農、暮らしに関心のある女性が集まって活動する「女性部」という組織があります。取り組みでは、食農教育や地産地消の推進につながる取り組み、料理や手芸、スポーツ、高齢者福祉など、幅広い活動に取り組んでいます。ここでは、地域の農と食をつなぐ「女性部」の活動を一部ご紹介します。

ボランティアグループ「ゆめみ隊」

JAあつぎ女性部の有志で構成される「ゆめみ隊」は、子育て支援活動や、福祉施設への訪問など、JAと地域をつなぐ活動を行っています。活動は、紙芝居や手遊び、歌遊び、バルーンアートと多岐に渡ります。食と農をテーマに手作りの紙芝居「ありがとう。とん吉」や「すごいで！ダイズレンジャー」は、食と農のつながりや、命の大切さを分かりやすく表現し、若い親子世代が共に学ぶ内容として好評を博しています。



食と農を考える会「サザエ会」

JAあつぎ女性部の有志で構成される「サザエ会」は、地域の伝統的な生活文化の継承や地場農畜産物のPR、地産地消の推進に向け、オリジナルレシピの考案や講習会の講師などを努めています。現在は100品のレシピを目標にアイデアを出し合い、料理コンテストにも度々入賞しています。併せてレシピ集なども作成し、直売所に配架することで、生産者と消費者をつなぎ、地場農畜産物の消費拡大にもつなげています。



Let's 仮入部!

女性部ふれあい体験

女性部ふれあい体験は、女性部に仮入部できる制度。料理や手芸、運動など、気になる講習会や活動に参加することができます。JAあつぎ管内に在住の成人女性であれば、どなたでも申し込みが可能です。心豊かな生活や地域の活性化に向け、一緒に活動しましょう。詳しくは、問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ 組織文化部(担当:生活ふれあい課) TEL:221-6881